

報 告

第44回日韓技術士国際会議（四国・松山）報告

A Report on the 44th Japan Korea Professional Engineers International Conference in Shikoku-Matsuyama

第44回日韓技術士国際会議は、2014年10月19日（日）より21日（火）までの3日間、四国・松山市で開催された。松山市は、人口50万余りの地方都市であり、“いで湯と城と文学の街”として知られている。韓国仁川空港と松山空港には直行便が運行されており、国際会議の日程もそれに合わせて実施された。会場は日本最古の温泉といわれる道後温泉に近いひめぎんホール（愛媛県民文化会館）をメイン会場とし、晩餐会は大和屋本店で開催した。今回の会議テーマは、「日韓両国に影響する危機管理対策と技術士の役割」である。日韓を取り巻く東アジア情勢に限らず、世界各地で直面するさまざまな危機に対して、日韓両国の技術士が自らの専門技術を活かして、それぞれの危機管理対策とその将来展望を議論する重要なテーマである。参加者数（技術士、同伴者、事務局）は、日本から207名、韓国から138名の総勢345名であった。

これまで日韓で異なっていた論文集の書式を統一し、両国で作成された論文集をファイルで合併して、国際会議にふさわしい資料集となった。会議運営は四国本部を挙げての取り組みと参加者のご協力に加え、天候にも恵まれてプレイベントにつづく、本会議、研修視察と3日間の行程を滞りなく終了することができた。

【会議概要】

●プレイベント（10月19日（日）夜）

青年技術士	第10回日韓技術士親善サッカー大会
女性技術士の会	第8回日韓女性技術士交流会
全体行事	前夜祭、会長委員長会食

親善サッカー大会初のナイター試合は、愛フィールド梅津寺（愛媛FCの練習グラウンド）において激戦が展開された。前半から優位にたった日本チームは、韓国チームの応戦を凌いで、3：2で勝利をおさめた。試合後に行われた交流会は、22時からという遅い開始にも拘わらず

70名を越す日韓両国のサッカー関係者が集い、夜更けまで酒を酌み交わし、交流を深めた。

女性技術士交流会は、日本側11名、韓国側6名、次回開催地からの視察2名の計20名の参加があり、大和屋本店「松の間」で開催された。両国参加者の自己紹介、両国の活動報告など、食事を取りながら終始和やかな雰囲気の中で会議が行われた。途中お互いのプレゼント交換もあって、両国の親善ムードが盛り上がった。

前夜祭は、親善サッカー大会がナイターになったことより、初めて単独で開催することになった。日本60名・韓国52名の参加により大和屋本店で開催された。水原会議のスライドを放映しながら、日本・韓国入り混じり翌日から始まる会議に思いを馳せながら楽しい時間を過ごした。



写真1 第10回日韓親善サッカー（愛フィールド梅津寺にて）



写真2 女性技術士交流会（大和屋本店松の間にて）

●式典・全体会議（10月20日（月）午前）

式典は、日韓技術士交流実行委員（四国本部運営委員長）須賀幸一氏による開会宣言に始まり、両国会長による挨拶、愛媛県知事（代理：長谷川副知事）、松山市長（代理：遠藤副市長）から祝辞をいただいた。続いて両国技術士交流実行委員長による年間活動報告がなされた。

基調講演は、室中善博氏（環境）から、日本が直面する危機管理と技術士の役割について、金在權氏（建設安全／土質・基礎）から、旅客船世越号の事故を事例にあげて韓国の危機管理対策と技術士の役割について講演がなされた。

開会宣言	日韓技術士交流実行委員 須賀幸一
両国会長挨拶	吉田克己（日本） 嚴翼俊（韓国）

来賓挨拶	愛媛県知事 中村時広（代読：長谷川淳二副知事） 松山市長 野志克仁（代読：遠藤美武副市長）
両国委員長報告	伊藤徹（日本） 金在權（韓国）
基調講演	「日本が直面する危機とその対応における技術士の役割」 室中善博（日本） 「韓国の危機管理対策と技術士の役割」 金在權（韓国）

●レディースコース（10月20日（月））

式典に並行してレディースコースが開催された。しまなみ海道の来島海峡大橋



写真3 本会議（ひめぎんホール）

を渡り、タオル美術館、砥部焼観光センターにて絵付け体験をするなど、子供を含む50名の同僚の方が研修を楽しんだ。

●分科会（10月20日（月）午後）

午後は下記5つの分科会において、逐次通訳による活発な発表・討論が行われた。

第1分科会 「環境・資源・エネルギー・食料」 座長：田中俊生 副座長：李康建
(日本)「植物バイオテクノロジーによる精英樹選抜」藤井裕二（生物工学）、「これからの電力源のあり方」平田賢太郎（化学）、「食品の安全と安心とリスクコミュニケーション～東京電力福島第一原発事故を例に～」今野徹（農業） (韓国)「開成工団の事例を通じた北朝鮮Infra開発協力課題及び方向」李康建（都市計画）、「WPS複合防水工法の事例研究」白斗煥（建築施工）
第2分科会 「建設・安全・防災・危機管理」 座長：曾武川淳 副座長：李昌洙
(日本)「技術士としての覚悟」を實踐して12年－高所作業時における安全帯完全使用への取組み等」鈴木朗（建設）、「地震災害時の外国人支援～秋葉原駅地区（東京）帰宅困難者防災訓練からの考察」旭勝臣（建設／総合）、「大規模地震災害に備えた地域継続力および地域防災resilience向上の課題と対策」岩原廣彦（建設／総合） (韓国)「00橋における橋梁基礎の設計研究」金學清（土質及び基礎）、「研究室の精密安全診断制度の改善及び技術士の役割」金斗煥（化工安全）、「韓国Energy企業の技術水準の決定要因」李昌洙（Gas）
第3分科会 「技術者倫理・技術者資格・技術教育」 座長：平野輝美 副座長：李芝衡
(日本)「Engineering Design体系構築の試み」鈴川竜司（電気電子）、「組織における技術者倫理活動の展開」水野朝夫（上下水道／衛生工学／総合）、「大学における「法工学」教育について-2」平野輝美（化学）、「我が国の人口減少問題を考える」牧山昭彦（建設）、「使いやすいTechnology Assessmentの紹介」平野輝美（化学） (韓国)「環境紛争の合理的処理方案」李芝衡（水質管理）
第4分科会 「電気・電子・情報・機械」 座長：星俊臣 副座長：南聖源
(日本)「公共Infrastructure維持管理に関わる官民連携Modelの構築」神原孝行（情報工学）、「日本の機械設備納入における法令規制とRisk管理について」星俊臣（機械／総合） (韓国)「建築音響SimulationにおけるCoupled Spaceの音響環境予測方法に関する研究」金日（電子応用）、「鉄道車輛TunnelのSystem interface設計に関する研究」南聖源（鉄道車輛）、「熱配管のAnchor支持台の安全性検討」金英煥（産業機械設備）
第5分科会 「英語発表」 座長：室中善博 副座長：柳忠鉉
(日本)「Ongoing Projects toward a Hydrogen-based Society- A Case of Kawasaki City -」室中善博（環境）、「Evaluation of corrosion in weathering steel bridges」小笠原誠（建設）、「Environmental policy in the field of fisheries」鈴木千賀（水産）（技術士補）

(韓国)「Saemangeum Travel Leisure Development Project」柳忠鉉（都市計画）、「Community Noise: New Policy Guidelines in Korea」孫玪坤（騒音振動）、「The concept of Universal Design」全相伯（建築構造）、「e-Government of the Republic of Korea」劉恩淑（情報管理）

●ポスターセッション（10月20日（月）終日）

午前中は2階ホール、午後は3階ホールにおいて両国技術士によるポスター9点が展示された。

●親善晩餐会（10月20日（月）夕刻）

18時より大和屋本店4階の千寿殿で行われた能楽を觀賞した後、18時30分より大和屋本店の大広間において日韓両国から290名余りの参加により親善晩餐会が催された。日本技術士会四国本部長、両国技術士会会長、来賓の挨拶、乾杯により宴が始まった。功労者（朴慶夫氏、李康建氏）への感謝状授与に続いて、サッカー大会の表彰があり、日本チームが優勝表彰を受けた。個人では、PK戦と本試合それぞれにつき各2名ずつ（日韓各1名ずつ）最優秀選手が表彰された。アトラクションでは、松山を発祥とする本家野球拳による日韓対抗戦を行い、会場は熱気に包まれた。次期開催地春川市による紹介の後、恒例の韓国ご婦人方のコーラスにつづき、日本側からはご婦人のみならず多数の男性を含めたコーラスが披露され、晩餐会の大団円を飾った。



写真4 晩餐会の女性コーラス（大和屋本店にて）

●研修視察（10月21日（火）終日）

研修視察はAコース（三浦工業北条工場）とBコース（井関松山製造所）に分か



写真5 研修視察（井関松山製造所にて）Bコース

れ、午前中それぞれ最新の設備を誇る工場を見学した。その後は、合流して昼食を民芸伊予かすり会館でとり、午後からは歴史遺産である松山城を訪れた。天候にも恵まれ、日韓の参加者は終始笑顔で有意義な研修となった。

本会議直前に急逝されました牧山昭彦委員に謹んで弔意を表します。

日韓技術士交流実行委員会 委員 須賀 幸一